

| | | | |
|---------------|--------------------------------------|---------|---------|
| 氏名 | 辻 千 晶 | | |
| 学 位 の 種 類 | 医 学 博 士 | | |
| 学 位 授 与 番 号 | 博乙第 2031 号 | | |
| 学 位 授 与 の 日 付 | 平成元年 9 月 30 日 | | |
| 学 位 授 与 の 要 件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当） | | |
| 学 位 論 文 題 目 | 吸入麻酔薬および NLA による血漿クレアチン値の変動に関する臨床的研究 | | |
| 論 文 審 査 委 員 | 教授 佐伯清美 | 教授 産賀敏彦 | 教授 太田善介 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

小手術を受ける全身疾患のない患者を 4 群に分け、麻酔導入前から 24 時間後まで計 6 回採血し、血漿クレアチン、クレアチンキナーゼを測定し、ハロセン、エンフルレン、NLA およびサクシニールコリンの筋肉代謝に及ぼす影響を比較検討した。その結果、血漿クレアチン値に及ぼす影響は、ハロセン＞エンフルレン＞NLA であり、ハロセンは他の二剤に比して麻酔薬吸入 10 分後から血漿クレアチン値を有意に増加させた。また、挿管時に投与したサクシニールコリンの影響はみられなかった。さらに、血漿クレアチン値は、クレアチンキナーゼよりも早期から増加することが確認された。

麻酔中の血漿クレアチンの増加は筋肉由来と推定され、その原因は、吸入麻酔薬による筋肉からのクレアチン放出、または、筋肉への取り込み抑制であると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は吸入麻酔薬および神経遮断麻酔（NLA）の血漿クレアチン濃度およびクレアチンキナーゼ活性に及ぼす影響を臨床的に検討したものであるが、骨格筋のクレアチン代謝の吸入麻酔薬による変化について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。